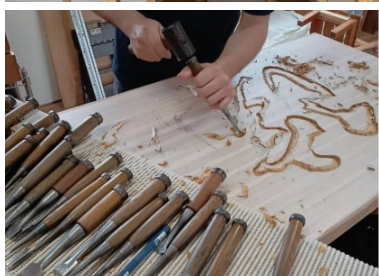


本堂内部の造作も着々と

本堂新築が進む浜松市・西光院様(曹洞宗・桐畑住職)にて、本堂内に掲げる寺号額や須弥壇を製作させていただきました。和紙に揮毫された墨書原本をお預かりし、扁額の材料出しから文字の写し、彫刻、墨入れまで、一つひとつ丁寧に仕上げました。

彫刻では、力強い筆遣いはもちろん、繊細なすれまで極限まで再現し、本来の墨書が持つ表情や趣を木の上に表現しました。



澤元清延氏による
寺号彫刻

また、内陣の須弥壇も組み立てが完了し、少しずつ堂内の姿が整ってきました。須弥壇は、ご本尊をお祀りする本堂の中

心となる大切な場所です。建物全体との調和を大切にしながら、天峰伝統工芸部いしずえにて、細部まで丁寧に仕上げました。

いよいよ落慶の日を迎えるまであとわずかとなりました。寺号額や須弥壇など一つひとつのしつらえも整い、新しい本堂にふさわしい空間が形となっています。長く工事に携わってきた私たちにとっても、完成した堂内を目にすると感慨深いものがあります。多くの皆様にお披露目される晴れの日に向け、準備も大詰めを迎えています。



浜松龍雲寺様に

今回、経年劣化が進んでいた建仁寺垣の修繕を行いました。長年風雨にさらされ傷みが見られたため、土台や柱を新調。下地を整え、新しい竹を一本ずつ張り直しました。修繕後は竹の美しさがよみがり、庭園の緑とも調和した建仁寺垣となりました。弊社では、本堂や山門などの社寺建築はもちろん、建仁寺垣や塀、境内の修繕にも対応しています。長い年月を重ねる社寺では、建物だけでなく、境内のさまざまな場所に少しずつ傷みが生じます。

「そろそろ直したほうがいいだろうか」といったご相談から現状を確認し、それぞれの状態に合わせた修繕をご提案しています。建物から境内の細かな修繕まで。これからも、社寺の景観を守り、次の世代へつないでいくお手伝いをしてまいります。

